

## 第 88 回日本病理学会東北支部学術集会 総会議案書

日 時：2019年2月16日（土） 12：35～13：00

場 所：良陵会館 2階 記念ホール

### 議題：I. 報告事項

1. 第 87 回支部学術集会の報告（鈴木先生） ; 資料 1
2. 第 88 回支部学術集会の概要について（菅井支部長）
3. 理事会からの報告（菅井支部長） ; 資料 2
4. 各種委員会からの報告
  - 育成リクルート委員会（南條先生）より ; 資料 3
  - 広報委員会（南條先生）より ; 資料 4
  - 教育委員会（藤島先生）より ; 資料 5
5. その他

### II. 協議事項

1. 30 年度支部会活動の反省・問題点について（菅井支部長）
2. 第 89 回支部学術集会について（後藤先生）
3. 第 10 回病理夏の学校について（菅井支部長） ; 資料 6
4. 第 90 回支部学術集会日程について ; 資料 7
5. アワードについて（菅井支部長） ; 資料 8
6. 支部会共有資料について（菅井支部長） ; 資料 9
7. その他

第87回日本病理学会東北支部学術集会収支計算書

資料1

I. 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
第87回学術集会収入	1,010,000	1,350,000	340,000	
集会協賛金その他	750,000	1,100,000	0	
集会標本代	0	0	0	
集会参加費	260,000	250,000	△10000	
雑収入	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	
利息収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入合計	1,010,000	1,350,000	340,000	

II. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
第87回学術集会経費				
会場費 (含む発表機材)	332,000	327,889	△ 4,111	
印刷費	150,000	95,040	△ 54,960	
運営費	350,000	294,207	△ 55,793	
事務用品費	70,000	22,041	△ 47,959	
通信運搬費	80,000	72,186	△ 7,814	
交通費	50,000	2,190	△ 47,810	
会議費(弁当・お茶代等)	60,000	42,000	△ 18,000	
講師謝礼金	100,000	55,105	△ 44,895	
人件費(アルバイト等)	100,000	119,405	19,405	
学術交際費	0	100,000	100,000	
その他雑費	0	19,937	19,937	
支出合計	1,292,000	1,150,000	△ 142,000	
繰越金額	△ 282,000	200,000	482,000	

## 理 事 会 議 事 次 第

日 時：平成 30 年 11 月 21 日（水）16:00～18:20

会 場：呉阪急ホテル 3F 安芸

### A 報告事項

1. 理事長報告
2. 分子病理専門医制度の件
3. 学術評議員資格更新の件
4. 各種委員会報告並びに各支部活動報告
5. 第 64 回（平成 30 年度）秋期特別総会の件 谷山先生 終了
6. 第 108 回（平成 31/2019 年度）総会の件 坂元先生（慶應大）
7. 第 65 回（平成 31/2019 年度）秋期特別総会の件 野口先生（筑波大）
8. 第 109 回（平成 32/2020 年度）総会の件 小田先生（九大）
9. 第 66 回（平成 32/2020 年度）秋期特別総会の件 相村先生（浜松医大）
10. 第 110 回（平成 33/2021 年度）総会の件 北川先生（医科歯科大）
11. その他

### B 協議事項

1. 平成 31 年度事業計画並びに収支予算に関する件
2. 第 109 回（平成 32 年度）総会宿題報告担当者選出の件
3. 第 65 回（平成 31 年度）秋期特別総会病理診断特別講演担当者選出の件
4. 「病理診断に関わる研修についての細則（口腔）」改定の件
5. 事務職員「就業規則」等改定及び関係規定策定の件
6. 今期新入会員承認の件
7. 総会審議事項等に関する件
8. その他

### C 検討事項/その他

## 資 料

- A1-1 理事長報告
- A1-2 会員数
- A1-3 病理学会活動報告
- A2 分子病理専門医制度関係資料
- A3 学術評議員更新制度開始関係資料
- A4 各種委員会委員一覧
- A4-1 臨床検査振興協議会医療施策委員会への要望書他
- A4-2 臨床検査医学会より連携フォーラムの提案
- A4-3 「病理専門医専攻医マニュアル」より  
「研修すべき知識・技術・疾患名リスト」改定案
- A4-4 国民のための行動指針 2019 (案)
- A4-5 デジタルパソロジーガイドライン (案)
  
- B1 平成 31 年度事業計画並びに収支予算案 [総会資料]
- B1-2 収支予算案参考資料
- B2, B3 学術委員会選考結果
- B4 「病理診断に関わる研修についての細則 (口腔)」改定案
- B5 事務局職員「就業規則」等改定案
- B6 今期新入会員一覧
- B7 平成 30 年度秋期特別社員総会議事次第 [総会資料]

※ 資料番号はおおよそ議題に対応しています。

## 平成 30 年度第 2 回 病理医・研究医の育成とリクルート委員会 議事録(案)

日時:平成 30 年 11 月 22 日(木)12 時 20 分から 13 時 20 分

場所:呉市文化ホール 3 階 展示室 1

出席:西川、南條、増永、池田、伊東、秋山、相島(順不同、敬称略)

欠席:豊國、茅野、鷹橋、上野(順不同、敬称略)

### 報告事項

#### 1) 本年度第 1 回議事録

豊國委員長不在のため、西川副委員長が委員長代理を務めた。副委員長より議事録について説明があり、参加者全員から了承された。南條委員より議事録を PDF の形で送付していただきたいとの要望があった(今回の会議資料は会期中に副委員長より添付書類として送付済み)。

#### 2) 今年度の活動報告

会議資料に従い、病理学研究新人賞とレジナビフェア東京出店に関して副委員長より報告があった。

### 審議事項

#### 1) 「日本病理学会 100 周年記念事業特別基金」プロジェクトに関して

平成 30 年度候補者に関する春の総会の座長 2 名の選考を行い、合議の結果、池田委員と西川副委員長が担当することとなった。

#### 2) 来年度レジナビフェアについて(増永先生によるアンケートの結果の議論)

本年度の病理専門医試験の終了後に行ったリクルート委員会アンケートの結果に関して増永委員から説明があり、その後、全員でフリーディスカッションを行った。増永委員から今年のレジナビの様子も説明していただいた(病理だけが影響を受けたわけではないが、会場設営が昨年とは異なり、やや人が集まりにくい状況だった;自ら積極的にブースに入ってくる人が増えた感じがした、など)。以下にレジナビとアンケートに関する議論の要点を示す。

①病理を専攻しようとした直接の動機の中で、学部時代、研修医時代に病理に興味を持つようになったことを挙げる人が多い。やはり、先輩病理医としていねいに若手を教育、指導することが大切であろう。

②レジナビフェアがきっかけで病理に興味を持ったと回答した人はいなかったが、アンケートに答えた人の中で実際にレジナビに参加したのは 2 人のみであり、この結果はそれほど気にしなくても良いのでは。

③費用対効果の検討も必要かもしれないが、やはりレジナビの意義は病理をアピールすることであり、今後も続けていくべきではないか?神戸大学の伊藤先生のグループにもリクルート委員会の意見を伝達する。

④アンケートは今後も継続し、推移を見守っていくべきである。

⑤アンケート結果を報告し、公表する必要がある。公表の仕方は、ホームページを利用し、ペーパーレスで良いのではないか?また、アンケート回答者の名前や所属(特に今後のレジナビへの協力を申し出てください先生方)は伏せ、数字だけを公表する。

#### 3) 各支部の報告あるいは問題点の指摘・要望

各委員から報告する時間的余裕がなく、会議終了後に各支部委員から活動報告を送っていただいた。

### ① 北海道支部

第15回夏の学校は7月7-8日に札幌医科大学 鳥越俊彦先生のお世話により札幌近郊の温泉地である定山溪で開催された(教員38名、学生・研修医44名)。特別講演(竹内賢吾先生、佐藤昇志先生、山口岳彦先生、原田大先生、高橋利幸先生、他)、若手病理医の講演、学生CPC、国家試験問題解説などのプログラムが用意された。

標本交見会は北海道大学腫瘍病理 田中伸哉先生の担当で、年4回のうち3回が行われた。50周年を記念して、北川理事長をお迎えし、9月1日に記念講演会と懇親会が開かれた。

病理地方会として今年で51回目を迎える病理談話会は10月13日に札幌医科大学フロンティア研究所 小島隆先生を会長として開催された。病理談話会は、実験病理、人体病理の研究発表の場であるが、年々参加者が減少している。これまでを振り返り、病理学研究を活性化させるために、50回分の演題抄録をまとめた小冊子を作成し、年内にホームページ上でPDF版をダウンロードできるように準備を進めている。

### ② 東北支部

今年4月に岩手医科大学教授の菅井有先生が東北支部長に就任され、教育、診療業務、研究、地域医療の推進を目的に、新役員の先生方、支部会員の先生方とともに支部全体の問題として捉え、深く広範な議論を進めていく方針を掲げられた。積極的な若手医師の育成、登用も引き続き重点課題として堅持されている。第87回日本病理学会東北支部学術集会時の夏の学校準備委員会で、第10回病理夏の学校を新潟大学の主幹のもと、2019年8/24-25に越後湯沢温泉で開催することに決定した。

### ③ 関東支部

7月15日(日曜日)に東京ビッグサイトで開催された東京レジナビに参加し、病理学会ブースを担当した(関東支部からは茅野と増永が参加)。また、増永を中心に病理専門医試験合格後の新しい病理医に対するアンケートを企画し、その結果を解析した。

### ④ 中部支部

「夏の学校」2018 in 富山が富山大学 井村穰二先生のお世話で8月25日(土)～26日(日)にグリーンビュー立山(富山県中新川郡立山町)にて開催された。

内容は講演1 名古屋大学 中村栄男先生『一人の先輩として病理学のダイナミックさとは』、講演2 札幌医科大学 佐久間裕司先生『臨床に結びつく病理学的研究の重要性とは』、講演3 富山大学附属病院 川口真一先生『なぜ僕は病理を目指すのか・物理から病理への転換』、講演4 札幌厚生病院 市原真(ヤンデル)先生『病理と臨床との架け橋・市中病院の一病理医として』、講演5 岐阜大学医学部附属病院 宮崎龍彦先生『病理として留学で学んだこと、そして今役立つこと』、講演6 富山大学 井村穰二先生『剖検を通じた病理の面白さ、タイトイ病研究での取組み』で、実際の剖検例を用いたCPCでの班別ディスカッション、症例解析結果の発表なども行われた。参加者は医学部学生20名、初期研修医7名、後期研修医15名と、その他病理医・教員等々で、病理学に興味のある、または病理医を志す若い医学生や研修医にとって、病理学を体験、堪能できる実りのある企画であった。

### ⑤ 近畿支部

日本病理学会近畿支部主催「病理 夏の学校」は、2018年8月25日(土)、神戸大学大学院医学研究科病理学講座の企画・運営により、神戸大学医学部会館シスメックスホールで開催された。プログラムは、1. 国

家試験対策病理診断演習 2. 講演 から構成され、講演タイトル・講師は、「大学附属病院病理診断科で働く病理医から」神澤真紀(神戸大学医学部附属病院 病理診断科)、「総合病院病理診断科で働く病理医から」山下大祐(神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科)、「病理学への招待」野島聡(大阪大学大学院医学系研究科 病理病態学講座)、特別講演は「病理専門医制度についてー病理専門医と病理専門研修制度の概要」森井英一(大阪大学大学院医学系研究科 病理病態学講座)であった。

参加者は、43名(学生ならびに研修医)で、教官、スタッフなど31名を含め計74名であった。学生の出身大学内訳は、神戸大学(15名)、大阪大学(8名)、京都大学(7名)、大阪市立大学(6名)、奈良県立医科大学(5名)、大阪医科大学(4名)、関西医科大学(3名)、大阪歯科大学(2名)、和歌県立医科大学(2名)、川崎医科大学(2名)、兵庫医科大学(1名)、近畿大学(1名)、京都府立医科大学(1名)、名古屋大学(1名)、福島県立医科大学(1名)、自治医科大学(1名)のほか、大阪市立総合医療センター(4名)、大阪国立がんセンター(2名)、神戸市立医療センター中央市民病院(2名)、愛仁会高槻病院(2名)、愛仁会千船病院(1名)、甲南病院(1名)、神戸労災病院(1名)、兵庫県立こども病院(1名)など市中病院からや近畿圏外からの参加者もみられた。アンケート結果では、病理医の仕事内容、研究に関して理解が深まったなど好評であった。

次回は、2019年8月24日(土)、京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学の企画・運営で、京都府立医科大学で行われる予定である。

#### ⑥ 中国・四国支部

支部長の川崎医科大学病理学教室の森谷卓也教授を今年度の世話人として、第19回病理夏の学校が、平成30年8月18日(土)と19日(日)に、岡山県倉敷市の川崎医科大学現代医学教育博物館、ならびに岡山市北区のレスパール藤ケ鳴を会場として開催されました。参加者は、スタッフ2名を含め100名(うち学部学生56名)でした。

今回は、「マクロ病理を極めよう」をテーマとし、病理肉眼像を観察することで、疾患や病態を予測する基礎を勉強することを目的としました。初日の会場となった現代医学教育博物館(メディカルミュージアム)は、世界的にもユニークな医学・健康の博物館で、一般向けの展示フロア(2F)と、病理展示フロア(4F)を見学していただきました。

支部会に関してですが、7月7日に予定された第126回の支部会スライドカンファレンス(世話人/島根大学医学部 並河 徹先生)は、7月豪雨の影響で中止となりました。その時の一部の演題は、12月8日に開催される第127回の支部会(世話人/JR 広島病院 中山宏文先生)で発表されることになっています。若手病理医の会の活動も継続されています。

#### ⑦ 九州・沖縄支部

平成30年10月13日~14日に熊本県あしきた少年自然の家において、熊本大学病理診断科の三上芳喜教授を世話人として第8回初夏の病理学校を開催した。3年生~研修医2年目までが参加し、1日目には竹内賢吾先生の特別講演、山元英崇先生、平木翼先生の教育講演などが行われ、2日目は症例検討と解説を行い、優秀な学生、研修医を表彰した。九州・沖縄地区では病理学校の参加者で病理医を目指し病理専門プログラムを専攻する医師を確保している。したがって病理学校がリクルート活動として機能していると考えている。

また、病理専門医取得前後の病理医を中心とした若手病理医の会では、大学や病院の枠を超えてつながりによって定期的な講演や勉強会が継続されている。

## 2018年度 第2回日本病理学会広報委員会議事録(案)

2018.11.21 呉阪急ホテル

広報委員会委員 14名

出席者：田中伸哉(委員長)、北川昌伸(理事長)、森井英一(常任)、坂元亨宇(常任)、落合淳志(常任)、安井弥(企画)、佐々木毅(理事)、菅井有(理事)、宇於崎宏(帝京大)、藤井丈士(虎の門)、中黒匡人(名大)、南條博(秋田大)、谷野美智枝(旭川医大)

欠席者：伊藤智雄(理事)、小倉加奈子(順天練馬)

## 議題

本委員会では議題1について大半の時間が使われ議論された。議題2-5は表題の確認のみ。

## 1. WEB会員システムの充実、機能拡充について。

## ①評議員の任期の更新について

これまで評議員に任期更新という概念がなかったが、新制度では任期は2年で更新が必要である旨を、総会の場で評議員に周知する。更新期間は2019年の2月を予定している。

## ②講習会の単位の電子化について

(これまでの議論)

他学会では、専門医のための単位の電子化が進んでいる。また、病理学会総会時の学会主催の分子病理診断講習会などでは、会場に入室の際に行列ができること、会場に椅子が不足することなど、会員に負担をかける場面が多いのが現状である。よって、単位の電子化が検討されてきた。本件は主として中黒匡人先生、宮本さんに基礎検討をしてもらっているが、前回委員会で提示された500万前後の初期投資の費用など的高額な予算規模と進め方について、その後の拡大常任理事会で議論されたが、本件は将来像としては進めるべきであるが、まずはトライアルを行い、使い勝手が良いか、事務局の負担増にならないか、詳細な手順で混乱が生じないか、など十分な時間をかけて検討しながら進めることとなった。具体的には約30万の経費を使って来年の細胞診講習会でトライアルを行う方針となっている。

(当日委員会での議論)

## 1) 入退場管理の具体的な方法について(中黒先生から、資料1に基づいて説明がなされた)。

会員にはバーコード付きの会員証を発行して、入場はバーコードを読み取ることで行う。

<退場管理：労力の側面>退場管理をするか否かについては、細胞診学会では、紙媒体を配布して、退場時に紙に氏名を記入したものを提出することで退場管理を行っている。病理学会では、それを行うと事務局の負担になることが想定される。細胞診学会はある程度、バーコードリーダーやソフト管理のノウハウのある職員がいるため、事務局中心の管理ができています。病理学会は状況が異なるため、細胞診学会と同じ方法とすることは難しい。むしろ業者をしっかりと入れて、システムを管理することが現実的である。

<退場管理＝機構による受講時間管理の側面>専門医機構から各学会に対して受講時間管理の方法



が適切かどうかの調査が入り指導を受ける可能性はないか議論された。森井先生より近い将来そのような専門医機構からの要請が来る可能性はあるとのことであった。この点については、将来的には退場管理も必要だが、本システムを開始するにあたり、全てを厳密にするのは現実的ではない。分子病理診断講習会など限られたものだけ退場も管理することで対応してはどうかという意見が出た。本件は、来年の2月に予定されている細胞診講習会時でのトライアルの結果も踏まえて継続審議することとなった。

1 1月2日に宮本さんが、口腔外科学会の電子化単位の運用状況について視察に行ってもらったが、この時の資料配布は席上なされず、詳細には議論されなかった。簡単に委員長から口頭で、当該学会では、単位は全て予約制で3000円で有料となっている。病理学会でも将来は全て無料とはいかないかも知れない旨は発言があった。参考までに見学の資料を添付（資料2）。

## 2. ホームページの改善、英語版の充実について。

- ・「学術委員会」と連携し、ホームページを活用した学術集会の国際化を推進する。
- ・改修WGは、藤井丈士先生、中黒匡人先生、小倉加奈子先生、矢山さん、宮本さん

## 3. 社会への情報発信について

- ・「社会の情報発信委員会」「病理医・研究医の育成とリクルート委員会」と連携し、市民、中高生への広報力を高める。
- ・動画に関して：消化管内視鏡・病理診断」「乳腺腫瘍・病理診断」などの案が常任理事会であり。

## 4. 様々な方策での市民への発信

- ・市民公開講座について高齢者市民の参加が多くなる傾向にあり、中高生を対象とした企画もいいのではないかと、との意見あり。（本年の秋期総会ではその方向）
- ・総会期間を通して、市民・中高生を対象として病理を紹介するブースを設置したい、との意見もある。

## 5. 医学会総会のポスター展示について

- ・日本病理学会を紹介するポスターを作成する。雛形が配布されているのでそれに合わせて作成する。
- ・「社会への情報発信委員会」は HANSHIN メッセと同様の小中高生を対象とした病理医体験を行っているが、同様のものを医学会総会に付随する市民に向けた情報発信の場で行う予定（伊藤智雄先生が中心となる）。

## 6. その他

学会のペーパーレス化について、話し合わせ、現状でも病理学会のサーバーに上げて、各自がダウンロードすることの対応が可能である旨、藤井委員から説明があった。具体的には、拡大常任理事会の資料のアップロード、また、次回のA演説、B演説の応募から始めることとなった。

以上。

## 平成30年度 第2回 教育委員会 議事録(案)

日時：平成30年11月21日 12:30～13:15

場所：呉阪急ホテル 6F 桃

参加予定者：近藤哲夫、長嶋洋治、中村保宏、笹野公伸(理事)、増田しのぶ(委員長)

欠席：泉美貴、降幡睦夫、増田友之、森谷卓也(理事)

## 1. 報告事項

- ・ 第108回日本病理学会総会 シンポジウムについて(資料1)
- ・ 非会員の演者について、総会長に確認すること。

## 2. 審議事項

- ・ 病理コア画像：正常組織像掲載について
  - ・ 長嶋先生に御提供いただいた正常組織画像を使用させていただく(資料2)。
    - ・ 先生方に各担当分野の画像を、増田よりCD-ROMにて送付する。
    - ・ 次年度4月より個人情報保護対応が厳しくなり、病理肉眼・組織像もその対象となる、という情報が寄せられたため、その前に改訂することとする。
    - ・ 病理学会事務局にて、HPの改訂作業に必要な日数を逆算して、締め切りを決める。
  - ・ 病理学の学生教育に際して、単に病理画像のパターン認識ではなく、病態理解が重要である。
    - ・ 総論の内容を新規に加えることとする。
    - ・ 全身性疾患の内容を確認する。
    - ・ 形態が遺伝子変異を含む細胞内分子活動の総和であることが理解できるような内容とする。
    - ・ 時間的経過による病理組織像の変化を合わせて示すことで、病態理解に役立つような内容を加える。例えば、
      - a) 心筋梗塞の時系列による組織所見の変化
      - b) コルポスコピー所見、CIN1, 2, 3の組織所見
      - c) 過形成、大腸腺腫、大腸腺癌
  - ・ 病理番号などが残っていないか、確認が必要である。
- ・ 学生ポスターセッションに表彰・交流会の時間が設けられていたため、何らかのメッセージを発することは可能である。
  - ・ 学生達が、病理の将来像が思い描けるような話が好ましい。

以上

## 日本病理学会東北・新潟支部 第10回病理夏の学校

日時：平成31年8月24日（土）～25日（日）

会場：越後湯沢温泉 湯沢東映ホテル

〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢 3459

TEL:025-784-2150（代） URL <http://www.toei.co.jp/hotel/yuzawa/>

主催：日本病理学会東北・新潟支部（当番校：新潟大学）

実行委員長：新潟大学医学部 臨床病理学分野 味岡洋一

## 開催事務局連絡先

〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地

新潟大学医学部臨床病理学分野

TEL: 025-227-2096 FAX: 025-227-0760

谷 優佑 (E-mail: [tani@med.niigata-u.ac.jp](mailto:tani@med.niigata-u.ac.jp))

各県実行委員： 青森県：小川 薫（弘前大学大学院医学研究科）  
岩手県：刑部光正（岩手医科大学医学部 病理診断学）  
秋田県：吉田 誠（秋田大学医学部 器官病理学）  
山形県：樺澤崇允（山形大学医学部 病理診断学）  
宮城県：山崎有人（東北大学病院病理部）  
福島県：喜古雄一郎（福島県立医科大学 病理病態診断学）  
新潟県：谷 優佑（新潟大学医学部 臨床病理学）

## 特別講師

滋賀県立総合病院研究所、京都大学名誉教授 真鍋俊明先生

（病理診断学の醍醐味、遠隔病理診断ネットワークなど）

筑波大学診断病理学 野口雅之先生

（病理学研究の醍醐味について）

札幌厚生病院病理診断科 市原真先生

（病理組織と臨床画像との対比を中心に）

会費：学生・研修医は無料

その他（大学院生を含む病理医、教員）は10,000円の予定

## 第 89 回学術集会について

期 日 : 2019年 7月 20日 (土)・21日 (日)  
 場 所 : 秋田大学医学部附属病院本道 40 周年記念会館 (秋田市)  
 会 長 : 秋田大学大学院医学系研究科器官病態学 後藤 明輝先生  
 (秋田県)→<函館>→新潟県→岩手県→青森県→福島県→山形県→宮城県)

## 第 10 回病理夏の学校について

期 日 : 2019年 8月 24日 (土)・25日 (日)  
 場 所 : 越後湯沢温泉 湯沢東映ホテル  
 会 長 : 新潟大学医学部臨床病理学分野 味岡 洋一先生  
 (福島県→青森県→岩手県→宮城県→山形県→秋田県→新潟県)

## 第 90 回学術集会について(仮)

期 日 : 2020年 2月 22日 (土)・23日 (日)  
 場 所 : 艮陵会館 (仙台市)  
 会 長 : 支部長 菅井 有先生

## 第 91 回学術集会について(仮)

期 日 : 2020年 7月 日 ( )・ 日 ( )  
 場 所 : (未定)  
 会 長 : (未定)  
 (秋田県)→<函館>→新潟県→岩手県→青森県→福島県→山形県→宮城県)

# 2019 - 2020 Calendar

**4** 2019  
H31

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

**5** 2019

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

**6** 2019

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

**7** 2019

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

**8** 2019

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**9** 2019

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

**10** 2019

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

**11** 2019

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

**12** 2019

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

**1** 2020

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

**2** 2020

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

**3** 2020

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

## 日本病理学会東北支部学術奨励賞制定内規（案）

（\*\*\*年\*\*月\*\*日制定施行）

### 1. 趣旨

この内規は、日本病理学会東北支部が行う会員の表彰について、必要事項を定めるものとする。

### 2. 受賞者

（1）表彰は、学術奨励賞とする。

（2）学術奨励賞は、日本病理学会東北支部会学術集会において病理学の基礎的研究あるいは診断業務に関連して特に優れた発表を行った本学会若手会員に与えられる。この場合の受賞対象者は、その年度の3月31日段階で45歳以下の会員とする。

### 3. 候補者資格

候補者は日本病理学会東北支部会学術集会で演題発表する者とする。

### 4. 受賞候補者の選考

（1）受賞候補者選考のため、学術奨励賞選考委員会（以下、「選考委員会」という。）を設置する。

（2）選考委員会は、日本病理学会東北支部会学術集会で演題発表する者から受賞候補者を選考し、支部長に諮問するものとする。

（3）選考委員会の内規は、別に定める。

### 5. 受賞者の表彰

（1）年間数名に学術奨励賞を与える。奨励賞は最優秀賞、優秀賞とする。

（2）学術奨励賞受賞者には、最優秀賞及び優秀賞として賞状及び副賞として記念品を贈呈する。

6. この細則の改廃は、日本病理学会東北支部役員会の議決による。

## 日本病理学会東北支部学術奨励賞選考委員会内規（案）

（\*\*\*\*年\*\*月\*\*日制定施行）

1. 日本病理学会東北支部学術奨励賞制定内規に基づき、日本病理学会東北支部学術奨励賞選考委員会(以下、「選考委員会」という)内規を定める。

2. 選考委員会は、学術奨励賞受賞候補者を選考する。

3. 選考委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

日本病理学会東北支部役員の中から各県2名ずつの14名を選任する。

4. 学術奨励賞選考委員長は、支部長が選任する

5. 委員の任期は、それぞれの役職の任期とする。

6. 委員長は、推薦内容を評価するにあたり、必要に応じてレフリーを指名し、その意見を聞くことができる。

7. この内規の改廃は、日本病理学会東北支部役員会の議決による。

## 【データベース（支部長案＋役員案）】

業務：

- ・ 病床数
- ・ 常勤の病理専門医数（医師， 歯科医師）， 細胞診専門医数
- ・ 病理専攻医数
- ・ 基礎講座を含めた病理専門医数（大学）， 細胞診専門医数
- ・ 病理検査技師数（診療に関わる技師数、技師長の有無）
- ・ ブロック， ガラス標本の保管年数
- ・ 残組織の保管期間（剖検， 一般プローベ）
- ・ 年間の組織診断件数（生検件数、手術検体件数、術中迅速診断件数含む）
  - ・ 術中迅速診断件数
- ・ 細胞診断件数
- ・ 病理解剖件数（施設外からの受け入れの有無， 件数）
- ・ 臨床カンファレンス数
- ・ CPC回数